

「キャリア教育実践事例」

横浜栄高等学校 小曲 昭男

秦野総合高等学校 須藤 聡

吉田島高等学校 片山 章太郎

有馬高等学校 遠藤 利昭

麻溝台高等学校 神田 聡美

令和6年度キャリア教育部会の研究グループでは、この研究報告を見た方の参考となるよう、各校で実施しているキャリア教育に関する実践事例を提供し、成果及び課題を検討することとした。記載内容は、各校の実践事例の要項とその参考資料である。

紹介する実践事例は①横浜栄「3年次学校別ガイダンス」、②秦野総合「探究活動における調査および発表」、③吉田島「仕事・資格77+3種類パズルワーク」、④有馬「進路漫才による職業や業界理解」、⑤麻溝台「総合的な探究の時間 年間計画」である。

各校の取組みから共通点を見出すならば、生徒が自身の進路について考えるきっかけを設けるようにしている点が挙げられる。高校生が「将来何をしたいか」、「どのように社会とかかわりたいか」を考えることは、自分らしい生き方や働き方を実現するうえで非常に大切なことである。ただ現状として、生徒が積極的に自身の進路に関連する事柄を調べたり、考えたりすることには課題がある。このことは、生徒が自身の進路を考えることに興味を持てなかったり、将来やりたいことが見つからなかったりすることに起因していると思われる。このような課題を踏まえ、各校では生徒自身の力で自分らしい進路の実現に向けた進路選択が

主体的にできるよう、自らを知り、社会を知る機会を増やす探究的な取組みを推進している。

例えば、①横浜栄では、上級学校からより詳しく専門的な話を聴講するガイダンスを実施した。②秦野総合と⑤麻溝台では、生徒自身が将来に関することを調べ、その分野の問いを見出し解決したものをプレゼンテーションする活動を実施した。生徒それぞれの進路に合わせた学びにより、将来に対するビジョンがより鮮明になったと評価できる。また、③吉田島でも、グループワークを通じて実際の職業や資格に触れることで、新たに興味関心を持てる職業や資格を発見することにつながった。④有馬では、趣向を凝らし、進路に対する意欲を高めることを目的として、生徒が興味を持ちやすい「漫才」を切り口として進路講演会を行った。生徒が将来どこで、どのように働きたいのかを具体的にイメージすることにより、様々な職業を知る機会にすることができた。

このように、キャリア教育の目標の達成に向けて、また、生徒の進路実現に向けて、各校で様々な工夫をしていることがわかる。この報告が今後の活動の参考になれば幸甚である。

(文：神田 聡美)

実践事例①

学校名・氏名	横浜栄高等学校・小曲 昭男
事例名	3年次学校別ガイダンス（学校別合同説明会）
実施日時	令和6年6月11日（火）
対象学年	3年次
実際形態	○事前アンケートによる希望調査を実施した。 ○各自2つの講座に参加し、残りは希望者のみ実施した。 ○会場として本校の教室、特別教室などを可能な限り使用した。
外部団体・依頼内容	株式会社 TAP

事前指導	これまでの進路研究を踏まえながら、専門別の説明を聞くことを通じて、自分の進路についての具体的なイメージをつかみ、今後の進路活動に対する意欲を高める。 当日前の2回の総合的探究の時間とLHRにおいて受講時のマナーなどの指導も行った。
当日の流れ	○学校別ガイダンスⅠ 14:25～14:55 ○学校別ガイダンスⅡ 15:05～15:35 ○個別ガイダンス 15:35～16:15
事後指導・生徒の声など	およそ2時間の中で2つの学校（大学・短大・専門学校）をじっくり聞くことができたとともに目的別に自由にまわることができる時間を設けることができた。そのため、1つのブースに何分も粘り強く話を聞く様子もうかがえた。 また、学校選びが不十分な生徒は類似した学科の学校の話聞くことで進路を固めることができた。

成果及び課題等	おおむね生徒による評価は高かった。進路についてあらためて考え、方向性を固めることもできた。課題としては、学校によってはパンフレットが足りなくなるところもあったので、パンフレットのみの参加校も設けてもよいのではないかと思う。
留意事項等	特になし

6月11日 学校別ガイダンス

※16:15に担任に提出してから帰宅すること

1回目 14:25～14:55	学校名

2回目 15:05～15:35	学校名

フリータイム

※またとないチャンス！ちょっとでも気になる学校はすべて回ろう

学校名	メモ
学校名	メモ
学校名	メモ
学校名	メモ
学校名	メモ

その他気になること

年 組 番 氏名

実践事例②

学校名・氏名	秦野総合高等学校（全日制）・須藤 聡
事例名	探究活動（総合的な探究の時間）
実施日時	後期の生徒の発表は12月10日（火）、17日（火）、1月14日（火）の3回
対象学年	2年次
実際形態	クラスごと 生徒の個人発表を前期、後期に各1回実施 （1人あたりの発表時間は前期3分程度、後期5分程度）
外部団体・依頼内容	特になし

事前指導	・生徒一人ひとり探究テーマを決める。テーマは自由とする。 ・前期に3回程度の情報収集および2回程度の整理・分析・まとめの時間を取り、後期も前期に準ずる。 ・前期は持ち時間で発表できるように、スライドを作成するなど一人ひとり発表の準備をする。 ・探究テーマは、年間通して同一のものでもよいし、後期は変更してもよい。
当日の流れ	・後期の発表は3回に分ける（12月10日、17日、1月14日）。 ・発表生徒はスライドを用い、探究したテーマを発表する。 ・生徒にはそれぞれ評価シートを持たせ友人発表の評価をする。教員は担任と副担任で評価をする（実際の評価は教員の評価をもとに行う）。
事後指導・生徒の声など	・3回の発表会の1つを公開授業とし、他校の教員にも見学してもらい、好意的な意見をいただいた。 ・生徒にとっては自身の興味・関心のある分野を見つめる機会となり、自己の進路を考えることにつながったのではないかと思います。

成果及び課題等	テーマを設定し調べてスライド等を利用してみんなの前で発表する経験をさせることが目標である。 課題として、一人ひとりのテーマが異なり、時間的にも人的にも教員が面倒を見切れないことがあげられる。
留意事項等	総合学科教育研究会主催の「総合学科フェスタ」や NPO 教育かながわフォーラム主催の「Grass Root Innovator Festival in Kanagawa 2024」など、外部の発表会に参加した生徒もいる。

『総合的な探究の時間』

目的) これが最終学歴かもしれない？

・・・「高校卒業」が最終学歴になるとしたら？

『探究』とは、なにをすることか？

ある対象について、

- ①それはなんであるか？
- ②なぜ、そうなのか？
- ③それはどのような意味や効果、影響をもつものなのか？

という視点をもって正確に理解につとめる行動

探究は大学でトレーニングするものですが、よりよく…と考え、取り組む必要があるひとには学歴にかかわらず必要な活動です。

とすればわかりやすいでしょう。

『総合的な探究の時間』はみなさんにこの『探究』の経験をしてもらうことを通して世の中で何かに取り組むときの練習台になるよう設けられています。

わたしたちの生活と社会は、いままで人類が積み重ねてきた『探究』によって明らかにされた知識や技術で成り立っています。わたしたちが生きていくには、そうした、

① いままでに明らかにされてきたことを理解して自分でもその知識や技術を使えるようにすること、
が不可欠です。

例えば、みなさんが便利に使っている自転車について考えてみましょう。

歩くよりラクで短時間で移動できる自転車は、車輪をどのような仕掛けで動かせば軽い力で作動するのか？ という問いに答える形になっています。木製の輪よりも、空気を注入したゴムのタイヤにした方が乗り心地も作動もよくなります。ペダルと車輪を結ぶチェーンのしくみも、どうやったらスムーズな作動をするのかを考えた人たちがいたから、いまの形式が生まれたのです。

自転車そのものを考えると以上のようなことを思いつくのですが、それではゴムタイヤや金属のチェーン、鋼線のスポークなどはどこから生まれてきたのでしょうか。これも、自転車のためだけに考え出されたわけではなく、ゴムや鋼といった素材が生活上いろいろな便利な道具の材料になることによってありふれるようになったからこそ、自転車の改良に用いられることになったのです。つまり、

② 一見して、直接関係のなさそうな知識や技術が結びつけられることで以前よりもより便利な道具に進化させること

という現象を生み出しています。これはふだん自分が興味・関心を持っている範囲が広ければ広いほど、そして自分が対象に対して興味・関心をもって取り組み、理解の深まりが深いほど、こうした発明・発見につながりやすいことを示しています。



Draisine ドライジーネ
木製のフレーム、車輪
1817 年 ドイツ

自転車
の
進化
の
方向

進化の歴史を探究することで読み取ることができたこと。

身近で加工が簡単な素材で

歩くより早く便利なひとり乗りの乗り物
↓
木材 前・後輪が直列する構造の確立

新しい疑問

ゴムや鋼材はどんなものから身
近な素材になったか？

鋼材(パイプ、チェーン、スポーク)、ゴム
などが 工業の発展 によって身近な素材
になった。

チェーン駆動、ブレーキ機構、変速機、ラ
イトなど現在の自転車の基本形が確立



Rover Safety
ローバーセーフティ
金属製フレーム、ゴムタ
イヤ、チェーン駆動
1885 年 イギリス

探究して知りえた情報から・・・

最初の自転車ドライジーネ(1817)をつくらせたのはドイツの貴族カール・フォン・ドライス *Karl von Drais*
レバー式ペダルの自転車(1839)をつくったイギリスの鍛冶職人カールパトリック・マクミラン *Kirkpatrick Macmillan*

最初のチェーン駆動を実現したセーフティ Safety (1879)をつくったイギリスのローソン *Harry John Lawson*
最初の自転車用の空気入りタイヤの特許を得た(1889)イギリスの獣医師ダンロップ *John Boyd Dunlop*

〈参考文献・出典〉

日本自転車文化協会 <https://www.jba-rw.org/index.htm>

ライトウェイプロダクツ RITEWAY PRODUCTS JAPAN https://www.riteway-jp.com/hajimete_lb/history_index.htm

探究を通してわかったこと

2 輪を縦に並べてハンドルを切る形式の自転車を生み出したのはドイツの貴族だったが、チェーン駆動や鋼製フレーム・スポーク、ゴムタイヤ、変速装置などの現在の自転車の基本形を整えたのは産業革命の時代を生きたイギリス人の技術者や知識人だったことが分かった。

今後の課題・・・

- ①これらのイギリス人はどうやって鋼材、ゴムを身近にしたか？ また、チェーンで駆動させるしくみは何から生まれて自転車に応用されたのか（それとも、自転車の駆動のためにチェーンは生まれたのか？）。また、車輪の支持部（ハブ）にボールベアリングを仕組む技術はいつ頃、どのように生まれたのか、そして、自転車に組み込まれるようになったのはどのような事情からか？

- ②自転車が身近な乗り物・移動手段になることで社会はどう変わったのか？

※最初の自転車は誰が楽しみ、庶民が買い求めるようになったのはいつ頃、何がきっかけだったのだろうか？

- ③これからの自転車はどのような発展の可能性を持つのか？

※①の問い(新しい課題・・・新たな関心事項)は探究の対象物(自転車)について、自分で自転車を解体して組み立ててみるほどの強い関心を持っていればこそ生まれてくる疑問です。

みなさんも、『探究』の練習台にする対象・課題について、ぜひ、強い関心を育てながら取り組んでみてください。

『探究』を深めるために！

◎なにを根拠や参考文献にしたのか、必ず表示・紹介してください！

自分が取り組んだ『探究』内容の紹介(発表)の手順とポイント

- ①なにに関心を持ったのか、対象・課題を明らかにすること。
- ②なぜ関心を持ったのか、動機(理由)を明らかにすること。
- ③どうやって解明したか、方法・手段を明らかにすること

調べもの（書籍を調べた、webの記事を調べた）（博物館や専門家に尋ねた）
実験（実験の手順や見取り図、状況の撮影など）

- ④どのようなことがわかったか、なにがわからなかったか、を明らかにすること。

※わからなかったこと、についてはその理由を考えて示すこと。

- ⑤とりくんでみてどのような感想を抱いたかを明らかにすること。

※今後の課題や、今後の課題にどのように取り組むかも明らかにしよう。

- ⑥参考文献、URL、協力してくれた人や機関を紹介すること。

グラフ

年表

にできる情報はよく
整理してグラフ化、
年表化しよう！

探究したことを誰かに見せる（伝えることができる）かたちにまとめる！

わかったこと、集めた情報の整理をしてみよう！

- ①時系列情報（前後関係、因果関係など時間の移ろいとともに理解できる情報）

例）年表

- ②空間的情報（分布や関係する土地の位置を同じ地図上に置くことで、つながりの空間的な把握ができる情報）

例）地図・・・分布図 色分け、記号化などを使って広がり表現する

- ③関係図にできる情報（人間関係に限らず、影響し合う・関わり合う姿を図化できる情報）

例）系図：親子・きょうだい関係、親戚関係など

例）組織図：命令系統、上下関係などが見やすくなる

- ④画像情報（視覚的に把握する）

例）写真、描画・・・画像から考えたこと、疑問に思ったこと、調べて確かめたことをメモすることを忘れない！

- ⑤グラフ情報（視覚的に把握する） ①の表とともに用いるとより検証しやすい

例）折れ線グラフ（時間の経過とともに変化する姿を見やすくする）

円グラフ（割合シェアを見やすくできる・・・円の大きさを工夫すると絶対量と割合の違いもわかりやすい）

棒グラフ（量の比較を見やすくできる・・・同時点でまとめる、時間の推移、割合も組み合わせることができる）

※①～⑤にとりくむと、

パワーポイントやスライドなどの IT ソフトを使ってプレゼンテーションもしやすい！

例)

自転車の発達の歴史

- ①発明を年表化できる。

- ②技術を発明した国の違いを位置で知ることができる。（離れているか、近いのか、特定の地域に集中しているかなど）

- ③出現期の自転車と現在の自転車、それぞれに使用されている技術や素材の比較図がつかれる。

（技術が継承される、すてられる技術があるなど）

- ④写真・絵画資料から自転車の形状、操作の比較ができる。

- ⑤重量の情報があれば出現期から現在の標準的な自転車の重量変化を見やすくできる。

（当然、軽くなっていくはず…軽く丈夫にすることにつながった素材や技術の情報と絡めたら面白そう）



1813 年 ドイツ
ドライジーネ
Draisine

木製のフレー
ム、直列の車輪

両足で交互に地
面を蹴って前進

1839 年 イギリス
カールパトリッ
ク・マクミラン
*Kirkpatrick
Macmillan*

が発明した
レバー式ペダル
の自転車

両足を地面から
解放

1863 年 フランス
ピエール・ラルマン
Pierre Lallement
ペロシペード
velocipede と名付け
た前輪駆動車は初め
てペダル・クランク
機構を組み込んだ。
しだいに前輪が巨大
化。オーディナリ
ordinary 型と呼ばれ
たりもした。

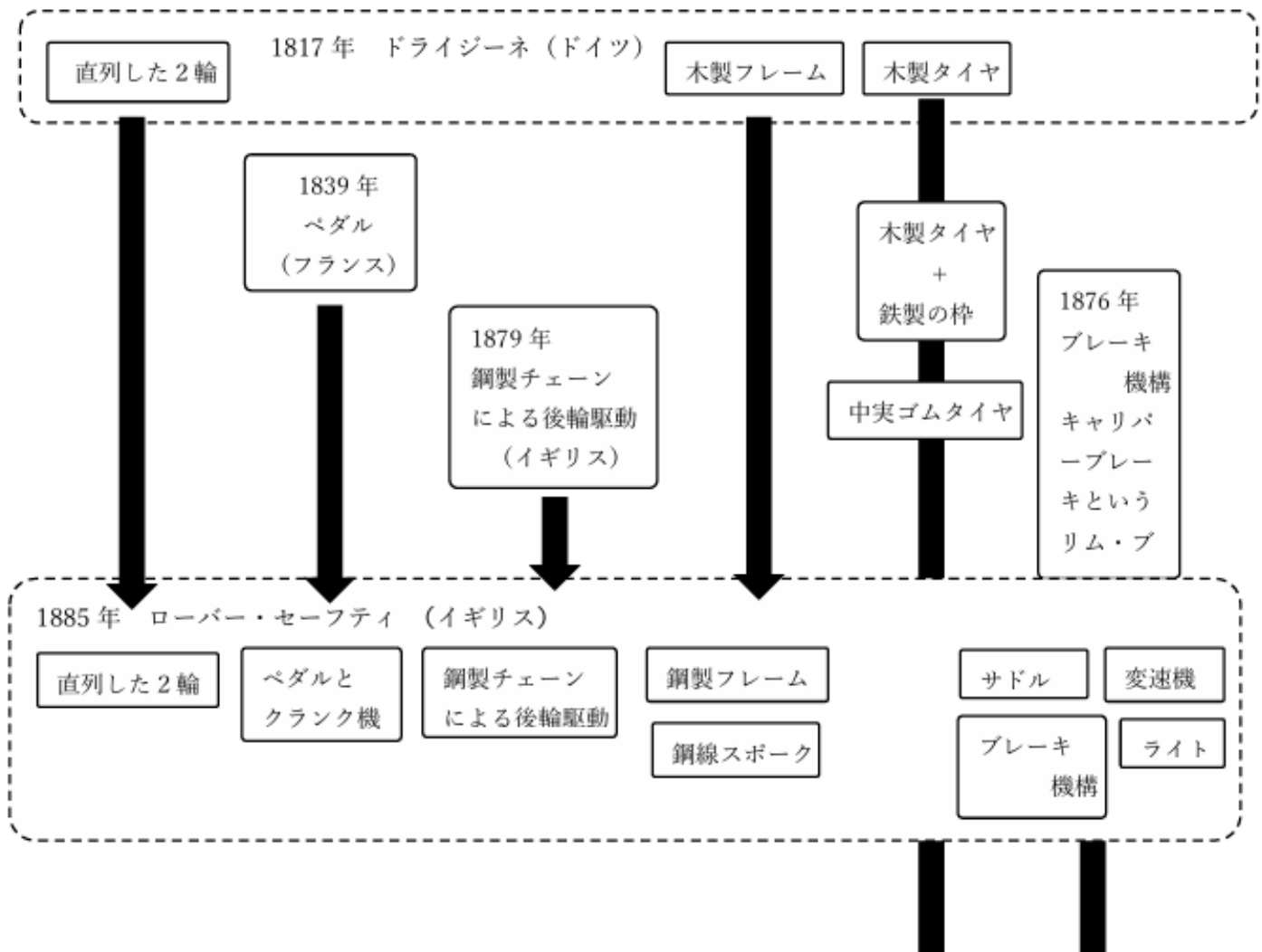
1879 年 イギリス
ローソン
Harry John Lawson
がつくったセーフ
ティ型自転車。
初めてチェーン駆
動を実現した。

1885 年 イギリス
ジョン＝ケンプ
＝スターレイ
John Kemp Starley
がつくったローバ
ー・セーフティ
Rover Safety
現代の自転車の基
本形が確立した。

セーフティ *safety* という名称はど
ういうことからつけられたのだろ

現代の自転車の基本形を確立したローバー・セーフティから自転車の“基本”をあぶりだす。

・・・新たな発展や応用は生まれるのだろうか？・・・



上のような関係図をつくると、わかっていないことがたくさんあることに気づく。

中実ゴムタイヤ、ってなんだ？ キャリパーブレーキ、リム・ブレーキ、バンドブレーキってなんだ？

変速機はいつごろ、どうやって自転車につけられるようになったのか？

バンドブレーキが日本で生まれたところが気になる。自転車を受け入れた国は多いが、自転車の標準装備になったものを作り上げた国はどれだけあるか、そしてなぜ、その国ではそれができたのか？

調べているうちに、現在はマウンテンバイクやクロスバイクが流行っているが、それより以前にロードスターRoadster 型という自転車があったことがわかった。

ロードスター型が求めたものは、安全・耐久性・メンテナンスのしやすさ、で、日本でも「実用車」といわれて流通した。日本ではほとんど見られなくなったが、発展途上国ではまだ需要がある。

より軽いもの、操作の楽なものになっていくのは当然だが、安全やメンテナンス（心得があればだれでもできる）を重視した考え方は、SDGs の配慮が必要であることが強く意識されるようになった現在、もう一度振り返った方がよいように思えた。

1889 年
初の空気入り
ゴムタイヤ発明
アイルランド

1928 年
ブレーキ
機構
日本でバン
ド・ブレーキ
が開発される

こんなふうに、調べてきた
ことをまとめると、ひとつ
のつながりが見えてくる。
調べきれなかったことを今
後の課題として整理する。

それはなんであるか？（どういうものであるか？・・・何に使う？ どのような働きをする？
どういう意味を持つ？）

※どう意味を持つか・・・なぜ、そうした意味があると考えたか？

それはなぜ、そうなるのか？（性質やしくみの解明）

調べてもなぜわからないのか？、知ることができないのか？

どこまでがどうわかり (a)、どこからがどうわからないのか (b)？

(a) わかるまでのとりくみが見えるようにする。

(b) わからない理由を考える・・・わかるようにするにはどうしたらよいか考える。

ベロシペード *velocipede* 1,863 年仏ピエール・ラルマン *Pierre Lallement*, 1843 年 10 月 25 日

- 1891 年 8 月 29 日 クランク機構とペダル

ペダル式自転車の始まり（まだ前輪を直に駆動）

マクミラン *Kirkpatrick Macmillan*

オーディナリー *ordinary*

ペニー・ファイジング *penny-farthing*

ハイ・ホイール・バイク *high wheel bike*

実践事例③

学校名・氏名	吉田島高等学校・片山 章太郎
事例名	仕事・資格 77+3 種類パズルワーク（基本編）
実施日時	令和 6 年 7 月
対象学年	1 年次
実際形態	グループワークガイダンス
外部団体・依頼内容	ライセンスアカデミー株式会社

事前指導	○職業や資格の名称と、連想する仕事内容をいくつか考えてくるよう指示をしておく。
当日の流れ	①実施内容について説明する ②グループ分けおよびリーダー決め ③手順とルールの説明 ④ワークの実施 ⑤答え合わせ ⑥解説 ⑦気になった職業二つについてワークシートをまとめる ⑧まとめ・振り返り ○進行は、YouTube 動画を利用して実施
事後指導・生徒の声など	○夏季休業中の課題として、職業や資格を 1 つ選び、B4 一枚にまとめて発表を行った。 ○将来、就きたい仕事を考えるきっかけになった。 ○知らない職業や資格がたくさんあることがわかった。

成果及び課題等	○職業や資格の種類は、知っている以上に多くのものがあることを知った。 ○夏季休業中の課題を通し、自分に関心がある仕事を見つけることができた。 ○昨年実施した 2 年次生は、学校調べ・会社調べを夏季休業中の課題とし、発表を行った。
留意事項等	○特になし

実施日	学年	クラス	番号	氏名
月 日 ()				

●気になった職業を2つあげてワークシートを完成させよう。

職業名	職業名
興味を持った理由	興味を持った理由
具体的な仕事内容	具体的な仕事内容
働く主な場所	働く主な場所
必要な知識・技術・資格	必要な知識・技術・資格
魅力・やりがい	魅力・やりがい
この仕事がないと困ること・人	この仕事がないと困ること・人
この仕事で大変そうなこと	この仕事で大変そうなこと
この仕事に就くための進路	この仕事に就くための進路
この仕事につくために今からできること	この仕事につくために今からできること

●次のサイトにアクセスして、仕事・職業につながる進路や進学先について調べてみよう！

「職業マップ」(QRコード) 仕事につくためにどんな進路があるか調べられるよ



「仕事人インタビュー」(QRコード) インタビューを読んで仕事へのイメージをふくらまそう



仕事・資格 77 + 3 種類パズルワーク① 解答

自動車整備士	スポーツインストラクター	看護師	ホテルスタッフ	司法書士	グランドスタッフ	パティシエ (製菓衛生師)	薬剤師	電気工事士
調理師	鉄道運転士	ブライダルコーディネーター	技師装具士	トリマー	キャビンアテンダント	公認会計士	精神保健福祉士	気象予報士
ウェブデザイナー	ネイリスト	サイクルエンジニア	はり師/きゅう師	音響スタッフ/ PA エンジニア	介護福祉士	測量士	ボタンナー	幼稚園教諭
司書	弁護士	システムエンジニア (SE)	エステティシャン	公認心理士	助産師	自動車組立工	保育士	CAD デザイナー/ CAD オペレーター
管理栄養士	警察官	販売員	消防官	臨床工学技士	通関士	社会保険労務士	栄養士	動物トレーナー
データサイエンティスト	自衛官	スタイリスト	理学療法士	プログラマ	救命救急士	医療秘書/ 医療事務	美容師	柔道整復師
グラフィックデザイナー	行政書士	インテリアコーディネーター	ツアーコンダクター	獣医師	養護教諭	フィナンシャル プランナー	学芸員	検察官
歯科衛生士	ジュエリーデザイナー	愛玩動物看護師	メイクアップ アーティスト	和装士	全国通訳案内士	臨床検査技師	税理士	声優
コンサートスタッフ	歯科技工士	保健師	児童福祉司	言語聴覚士		作業療法士	社会福祉士	土木技術者

実践事例④

学校名・氏名	有馬高等学校・遠藤 利昭
事例名	進路漫才による職業や業界理解
実施日時	令和6年5月9日（木）14：55～15：50
対象学年	1年生
実際形態	体育館での全体会
外部団体・依頼内容	株式会社さんぼう、オシエルズ・進路漫才

事前指導	将来を考える上で、何をしたいかも大事だが、どこで、どのように働きたいかというイメージをすることの大切さを伝える。それにより目指す進路が変わる。その場所の中で様々な仕事・職業があるのかを考えさせる。
当日の流れ	現役の芸人による漫才を軸に、「職業」や「進路」について考えるワークを織り交ぜ、生徒が笑い、そして考えながら参加できる双方向型のガイダンス。 当日は、13：30 頃に業者と漫才師が来校し、こちらの学校についてのことを聞かれ漫才に織り交ぜていただき、体育館での全体会の流れ。
事後指導・生徒の声など	漫才から得たことをワークシートに書き出し、ただ面白かっただけで終わらせないようにし、職業に対する視野を広げ、理解を深めるようにした。 生徒には、内容が面白いだけでなく、将来のことを考えるきっかけとなった。

成果及び課題等	進路漫才という、未知の領域の中、当日を迎えるまで教員からも不安視する声があったが、内容がよく組み立てられておりとても有意義なものであった。多くの生徒には、自分自身の将来を考えるきっかけとなった。1年生の最初に行うにはよかったと考える。
留意事項等	進路漫才に対するイメージの払拭と、事後指導をしっかりと行わないとただ面白かっただけで終わってしまうので注意が必要である。

進路講演会 ワークシート - 事前課題

講演会の題名: 進路漫才オシエルズ

学年: _____ クラス: _____ 出席番号: _____

名前: _____

① 自己分析

- ・自分の興味のある分野や職業、将来の目標について書いてみましょう。
(例: 得意科目、好きなこと、やってみたい仕事など)

② 質問リストの作成

講演者に聞いてみたいことを3つ以上考えましょう。

1. _____
2. _____
3. _____

③ 講演者やテーマについて調べる

講演者や講演テーマについて調べて知っていることをまとめましょう。

進路講演会 ワークシート - 当日課題

講演会の題名: 進路漫才オシエルズ

学年: _____ クラス: _____ 出席番号: _____

名前: _____

① 印象に残ったこと・メモ

講演の中で心に残った言葉やエピソード、気づいたことを書きましょう。

② 質問と回答

講演者への質問と、回答を記録しましょう。

質問: _____

回答: _____

進路講演会 ワークシート - 事後課題

講演会の題名: 進路漫才オシエルズ

学年: _____ クラス: _____ 出席番号: _____

名前: _____

① 振り返りレポート

講演で学んだことや感じたこと、自分の進路について考えたことを書きましょう。

② 今後の目標や行動

今後の目標や取り組みたいことを書きましょう。

進路講演会 アンケート

講演会の題名: 進路漫才オシエルズ

学年: _____ クラス: _____ 出席番号: _____

名前: _____

進路意識と講演会についてのアンケート

以下の質問に回答してください。

1. 講演会を通して、進路についての意識が変わりましたか？

☐ 大きく変わった ☐ 少し変わった ☐ 変わらなかった

2. 講演内容で最も印象に残った点は何ですか？

3. 講演会についての感想や、今後の講演会に期待することがあれば教えてください。

実践事例⑤

学校名・氏名	麻溝台高等学校・神田 聡美
事例名	総合的な探究の時間 年間計画
実施日時	通年
対象学年	1 学年
実際形態	授業
外部団体・依頼内容	教育通信社

事前指導	「好き・興味関心」を中心に探究し、自身の進路につなげる活動とする。
当日の流れ	○1 学期 ・「好き・興味関心」のあることをあげていき、それらを学問として研究する学部を調べ、7 月の文理選択を行えるようにする。 ・文理選択が難しい生徒に対して担任・副担任が面談をおこない、どのような課題意識があるかなどのフォローをする。 ○2 学期 ・「好き・興味関心」に基づく問いを個別に設定し、12 月に発表する。 ○3 学期 ・1、2 学期の振り返り、探究の活動を含めた自己 PR 書を作成する。
事後指導・生徒の声など	・事後指導として、2、3 学年には自身の進路に関連するより細かい分野について探究するという見通しをもたせた。 ・生徒からは、活動を通じて他者の考えを知ること、自らの考えを広げ深めることができたという声が4分の3以上あがった。

成果及び課題等	入学当初は、進路をどのように決めていけばよいか、わからない生徒が多くみられた。しかし、1 年間の探究活動を通じて「好き・興味関心」を基軸に、自己の進路を見つめ考えるという1つのやり方を提示できた。課題としては、生徒一人ひとりで課題や悩みが異なるため、それらに対応するための教員側の専門分野や準備が不足していたように感じた。
留意事項等	特になし

R6年度 総合的な探究の時間 年間計画表

2024年度				51期	50期	49期	模試日程
				1 学年	2 学年	3 学年	
月	日	回	目的	6 校時(探究)	6 校時(探究)	6 校時(探究)	
4	1	×	1 学年：文 理、2 学年：科 目、3 学年：第 一志望	辞令交付式	辞令交付式	辞令交付式	
	8	×		始業式	始業式	始業式	
	15	1		探究オリエンテーション	探究オリエンテーション	探究オリエンテーション	
	22	2		文理探究① 悩んでいる生徒の特定	科目探究① 悩んでいる生徒の特定	第一志望探究① 悩んでいる生徒の特定	
	5	29		×	文理探究② 悩んでいる生徒への支援	科目探究② 悩んでいる生徒への支援	第一志望探究② 悩んでいる生徒への支援
6		4		振替休日	振替休日	振替休日	
13		5		文理探究③ 文理説明会に向けて	科目探究③ 生徒個別面談（旧・副）	第一志望探究③ 総合型選抜説明会（専門学校の説明も）	
20		×		1 学期中間試験	1 学期中間試験	1 学期中間試験	
6	27	6		文理説明会	科目探究④ 説明会に向けて	第一志望探究④ 大学の特色についてリサーチ 現時点での第一志望調査 2	
	3	7					
	10	8		文理探究④ 文理説明会の振り返り	学部・学科説明会	5 月模試振り返り ～表彰 2～	
	17	9		文理探究⑤ 生徒個別面談（旧・副）	科目探究⑤ 説明会の振り返り	学習スケジュール・学習法 塾長？	
7	24	10		文理探究⑥ 生徒個別面談（旧・副）	科目探究⑥ 生徒個別面談（旧・副）	第一志望探究⑥ 夏休みの学習計画表作成	河合模試 第二回全統記述模試 希望日：8/27/火
	1	×		1 学期末試験	1 学期末試験	1 学期末試験	
	?	特		保護者事前確認WS作成	保護者事前確認WS作成	保護者事前確認WS作成	
	?	特		OC説明・計画書作成＝P	OC説明・計画書作成＝P	OC説明・計画書作成＝P	
夏				①OC＝Do ②三者面談＝Check	①OC＝Do ②三者面談＝Check	①OC＝Do ②三者面談＝Check	
				探究オリエンテーション 2 好き×気になる疑問	探究オリエンテーション 2 興味関心×気になる課題	第一志望実現探究⑦ 入試カレンダー作成練習 ※昨年度の日程で	
9	26	13					英語検定 9/27/金 or 10/4/金
	2	14		文理探究⑦ テーマ設定	科目探究⑦ テーマ設定	第一志望実現探究⑦ 入試カレンダー練習用提出	
	9	×		文化祭片付け	文化祭片付け	文化祭片付け	
	16	×		敬老の日	敬老の日	敬老の日	
	23	15		振替休日	振替休日	振替休日	
10	30	16		文理探究⑧ 情報収集のPLAN作成	科目探究⑧ 情報収集のPLAN作成	第一志望実現探究⑧ 入試カレンダー作成・面談	3 年河合模試 第三回全統記述模試 希望日：10/22/火
	7	17		文理探究⑨ 情報収集 （調べ、アンケート、実験）	科目探究⑨ 課題設定 （課題の原因とその原因）	第一志望実現探究⑨ 2023年の入試傾向	
	14	18		スポーツの日	スポーツの日	スポーツの日	
	21	20		TGGW?	修学旅行	第一志望実現探究⑩	
11	28	21		文理探究⑩ 情報収集の結果からメリット予測	科目探究⑩ 理想的解決策の立案	第一志望実現探究⑪ 入試カレンダー本番用提出	高 1・高 2 河合全統模試 希望日：10/31/木
	4	22		振替休日	振替休日	振替休日	
	11	23		文理探究⑪調査に対する情報収集	科目探究⑪調査に対する情報収集	第一志望実現探究⑫ 入試カレンダーについて面談	
	18	24		文理探究⑫ 情報整理及び分析	科目探究⑫ 情報整理及び分析	第一志望実現探究⑬ 入試カレンダーについて面談	
12	25	25		文理探究⑬ まとめ～発表準備～	科目探究⑬ まとめ～発表準備～	第一志望実現探究⑭ 入試カレンダーについて面談	高 1・高 2 河合全統模試 希望日：1/23/木
	2	26		河合模試振り返り	河合模試振り返り	河合模試振り返り	
	?	27		探究発表 特時（2 日間実施が基本）	探究発表 特時（2 日間実施が基本）	第一志望実現探究⑮ 調査書発行依頼提出	
	?	28					
1	?	29					
	13	30	成人の日	成人の日	成人の日		
	20	31	合唱コンコリハ	合唱練習	共通テストリサーチ		
2	27	32	自己PRの書き方講座	志望理由書の書き方講座	自由登校		
	3	33	文理探究⑭ 自己PR文の作成	科目探究⑭ 志望理由書の作成	自由登校		
	10	×	文理探究⑮ 自己PR文の読み合い	科目探究⑮ 志望理由書の読み合い			
	17	×	入試	入試			
	24	34	振替休日	振替休日			
3	4	×	卒業式	卒業式			
	?	35	探究自己PR文返却(1 コマ)+進路(1 コマ) ※進路…学部・学科調べについて	探究志望理由書返却(1 コマ)+進路(1 コマ) ※進路…キャリアデザインガイドブックにつ			
	?	36					

○探究発表会の様子

12月19日（木）、20日（金）に計8時間かけて行われた探究発表会は、1学年全員が「好き・興味関心」にもとづいた発表をおこなった。生徒の中で特に優秀な発表を選び、地区の発表会にも参加した。



発表タイトル：野草は野菜の代替品になるのか



発表タイトル：食事、睡眠、体重と筋力の関係性について



発表タイトル：『源氏物語』の普遍的な魅力とは